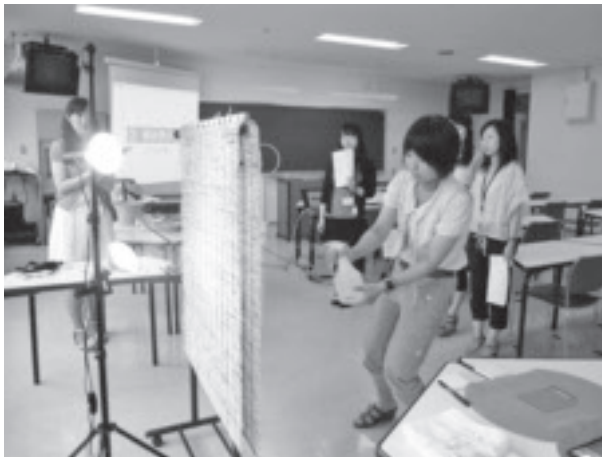


## 「藤女子大学家庭科教育研修講座」(第13回)を終えて

去る7月30日(土)、本学人間生活学部人間生活学科主催「藤女子大学家庭科教育研修講座」が、花川校舎を会場に開催されました。今年で13回目を迎える今回の講座には、道内の中・高等学校の家庭科教諭のほか、学部学生、大学院生、教職員を合わせて約30名の参加があり、本学の阿部包人間生活学部長の挨拶の後、講話、実技講座、実践交流が催されました。

午前には、本学人間生活学部保育学科の木脇奈智子氏を講師に迎え、「子育てとジェンダーを考える—日本における男性の子育て『変化の20年』—」というテーマで講話が実施されました。男性の子育ての動向について具体的なデータを基に分かりやすく説明をしていただき、参加者からは今後の授業に活かしていきたいという意見が多数寄せられました。

午後には、実技講座としての小松恵美子氏(現 北海道教育大学旭川校准教授)による「ユニバーサルデザイン」をテーマとした被服実習と、田中宏実氏(本学人間生活学科准教授)による「環境と共生した住まい方について」をテーマと



〔実技講座の様子〕

した快適な住まいづくりに関する実験がそれぞれ行われ、参加者は希望の講座を受講しました。その後の実践交流では、参加者の日頃の授業実践に関する悩みや課題について、活発な意見交換が行われました。また、将来教員を目指す本学の学生に対して様々な助言をいただきました。

今回の研修講座を実施するにあたり、藤の実会より支援金をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げますとともに、今後もこの講座が現場で活躍する教員と本学学生の貴重な研修の場となるよう、取り組んでいきたいと考えています。

岡崎 由佳子(藤女子大学人間生活学部)

## 第13回藤女子大学家庭科教育研修講座開催要項

1. 開催期日 2011年 7月30日(土) 10:00~17:00
2. 会場 藤女子大学人間生活学部(花川キャンパス 石狩市花川南4条5丁目 0133743111)
3. 主催 藤女子大学人間生活学部人間生活学科
4. 参加者 小学校・中学校・高等学校・大学の家庭科教育関係者, 大学院生, 学生, 関心のある方
5. 講座内容

時 間	講 座 内 容
9:00~10:00	受 付 (3F 全体会場 349講義室前)
10:00~10:10	1. 開 講 式 開講の挨拶 藤女子大学人間生活学部長 阿部 包
10:10~11:20	2. 講 話 「子育てとジェンダーを考える」 -日本における男性の子育て『変化の20年』- 講 師 木 脇 奈智子 氏 (藤女子大学人間生活学部保育学科 教授 家族社会学) 主 旨:家庭科の男女共修化が1994年に開始されて以来17年が経過し, 共修の初期世代が現在子育てに取り組む年代となっています。この間, 少子化社会対策と男女共同参画社会の実現という2つの視点から「男性の子育て」が推進されてきました。しかし, 日本の男性の子育て意識は高まっているものの, 実際の子育て時間や質には偏りがあることも明らかになっています。「変化の20年」における男性の子育てについて, 法制度・企業・家族など社会の変化と関連付け, 今後の子育てや次世代育成教育の課題とともに考えます。
11:20~11:50	質 疑 ・ 応 答
11:50~13:00	≪ 昼 食 ・ 休 憩 ≫
13:00~14:30	3. 実技講座 A 「ユニバーサルファッション」 講 師 小 松 恵美子 (藤女子大学人間生活学部人間生活学科 准教授 被服学) 主 旨:自分らしい衣生活を送ることは社会で生きる人間にとって大切なことですが, 加齢や障害等のために被服が合わなくなる場合があります。ユニバーサルファッションの視点から身体, 姿勢, 動作に合わせた被服の工夫を紹介します。  B 「環境と共生した住まい方について」 講 師 田 中 宏 実 (藤女子大学人間生活学部人間生活学科 准教授 住居学) 主 旨:環境実験をとおして暖かさ涼しさについて理解し, これからの環境と共生した住まい方について考えていきます。
14:30~14:40	≪ 休 憩 ・ 準 備 ≫
14:40~16:40	4. 実践交流 主旨:日頃の家庭科指導における疑問や悩み, 成果等を交流し合い, 経験者の体験や教訓を参考にし, 今後のよりよい実践の糧とする。またネットワーク作りの契機とする。
16:45~17:00	5. 閉講式 閉講の挨拶 藤女子大学人間生活学部人間生活学科 主任 橋 本 伸 也